

運用指針

第2条③

供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減

阪和自動車道

カイナン

アリダ

(海南IC～有田IC 4車線化)の早期供用

当初計画

【①用地収用(海南IC、下津IC)】

- ・協定締結時点で買収の見込みがなく、土地収用法による用地取得(平成21年10月)を予定

【②長峰トンネル】

- ・トンネル工事は両側からの掘削で計画
- ・円形水路・監視員通路側壁は、現場打ちコンクリートで計画

【③海南IC・下津ICのランプ閉鎖】

- ・Ⅱ期線本線と既設ランプの交差部はランプ終日閉鎖による施工で計画

供用予定日:平成24年3月31日

経営努力による変更

【①用地収用(海南IC、下津IC)】

- ・粘り強く交渉し、平成20年2月に任意で用地取得
⇒約20か月の工期短縮

【②長峰トンネル】

- ・補助工法の追加による工程遅延があったものの、トンネル工事の施工区間の見直しにより工程を回復
- ・円形水路・監査路をプレキャスト製品に変更
⇒約3か月の工期短縮
- ・舗装工事の施工パーティ-数の増、施設工事との工程調整
⇒約3か月の工期短縮

【③海南IC・下津ICのランプ閉鎖】

- ・盛土材に鉄鋼スラグの採用、昼夜連続施工によりランプ閉鎖期間を短縮
⇒約10日の工期短縮

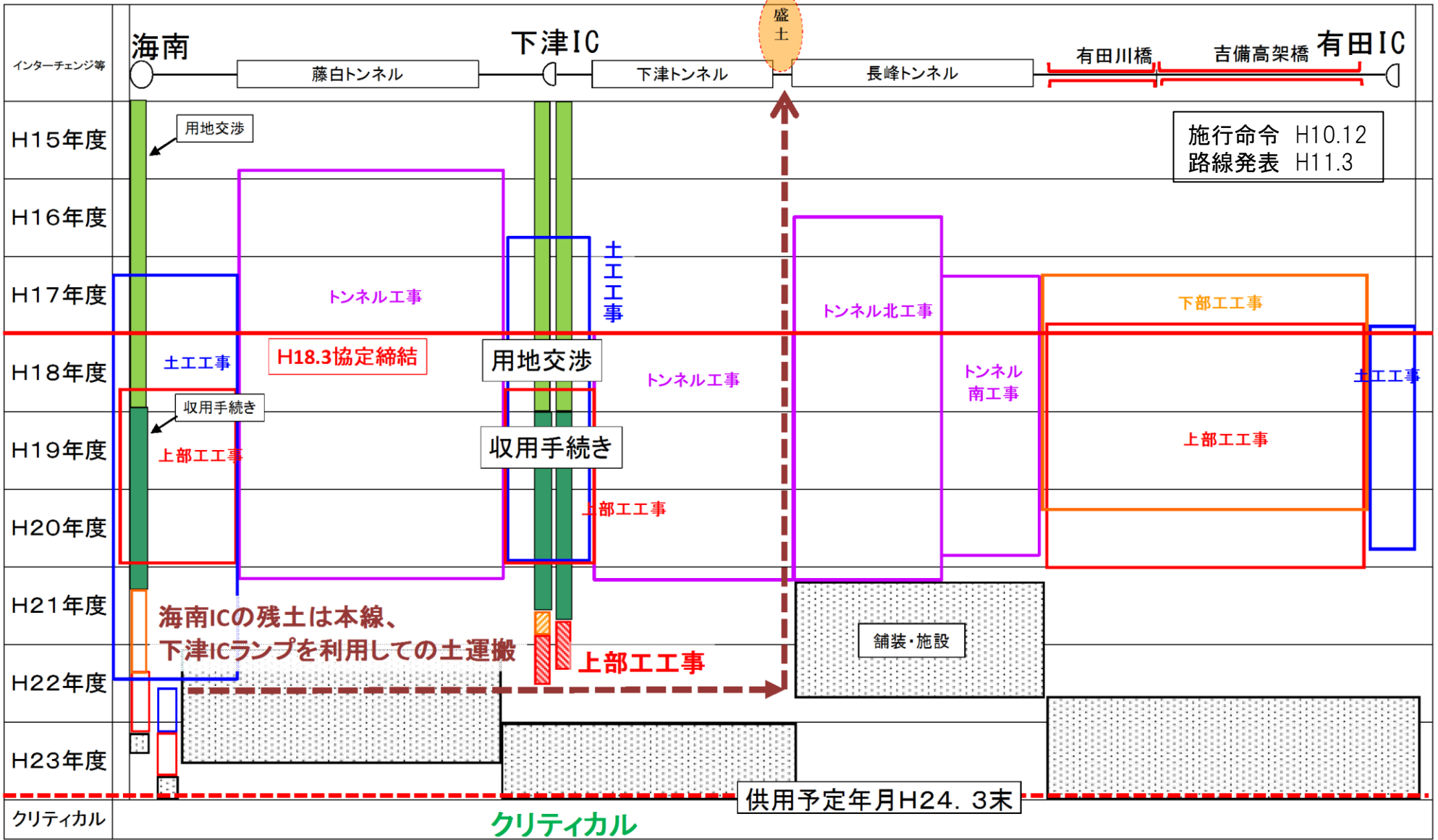
供用日:平成22年7月16日
(624日の早期供用)

阪和自動車道 海南IC～有田IC(4車線化)路線概要

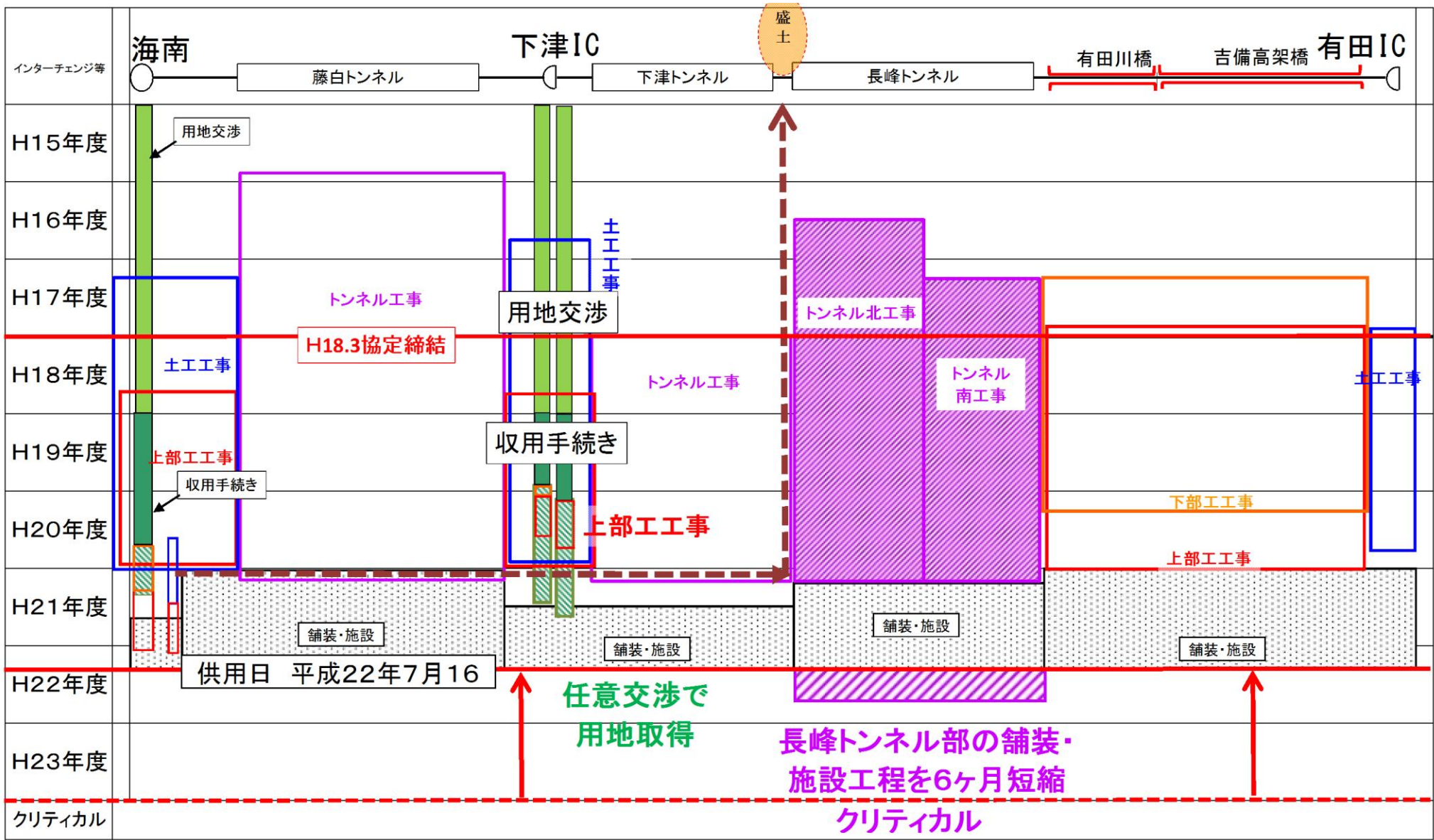


- ・近畿自動車道松原那智勝浦線は、大阪府松原市を起点とし、和歌山市及び田辺市を經由し、那智勝浦町に至る延長208kmの高速自動車国道である。関西と白浜・熊野・那智勝浦を結ぶ観光道路、和歌山市と吉備以南を結ぶ生活道路として重要な路線である。
- ・海南IC～有田IC間は、昭和59年3月に2車線供用。平成22年7月16日に4車線化工事完成。
- ・開通後の交通量は約3万台/日であり、4車線化により渋滞緩和や沿線地域の活性化に寄与。

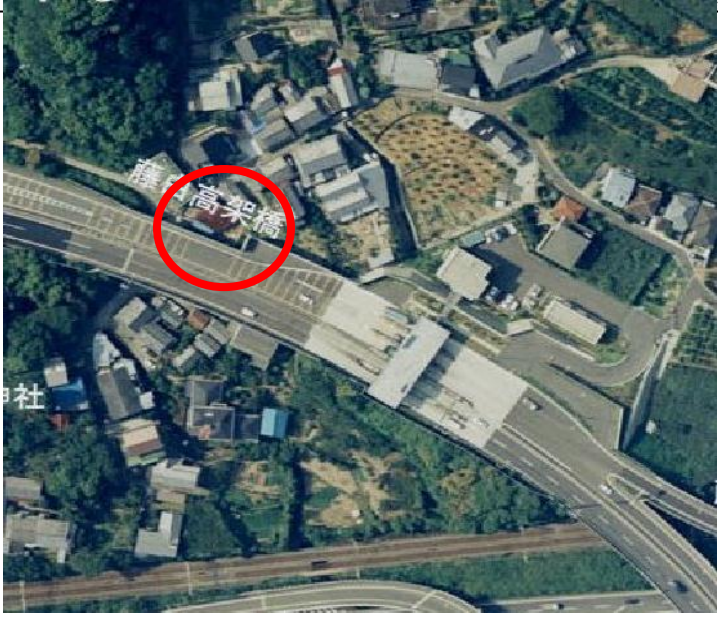
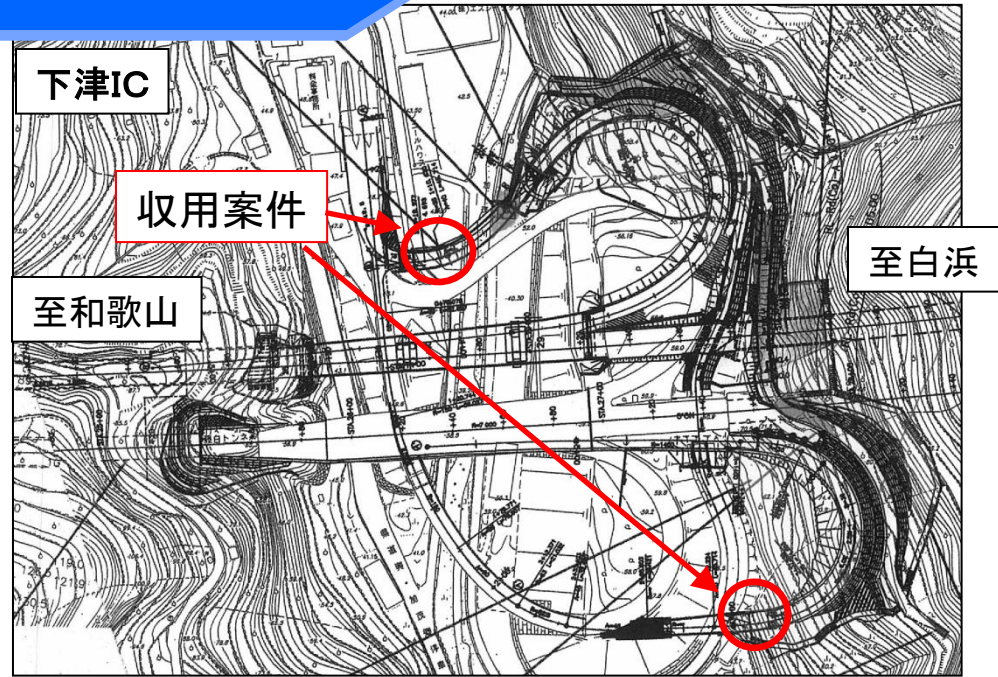
当初工程(阪和道 海南IC~有田IC 4車線化)



実績工程(阪和道 海南IC~有田IC 4車線化)



①-1 海南IC、下津IC収用工程の短縮



①-2下津インターチェンジ収用工程の短縮

■当初工程表

問題箇所	平成19年度												平成20年度												平成21年度												平成22年度												平成23年度										
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
下津IC Bランプ	事業認定申請	事業認定告示	裁決申請 明渡裁決申立										審理			裁決	明渡期限			権利取得 代執行			橋梁下部工			橋梁上部工			舗装																														
海南IC													海南IC切土工事			舗装	橋梁上部工			舗装																																							
開通予定時期																									8カ月	2カ月			6カ月			2カ月																											

約20カ月短縮

約20カ月短縮

■実績工程表

問題箇所	平成19年度												平成20年度												平成21年度												平成22年度												平成23年度										
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
下津IC Bランプ	事業認定申請	事業認定告示	裁決申請 明渡裁決申立										橋梁下部工			橋梁上部工						舗装																																					
海南IC													海南IC切土工事			舗装	橋梁上部工			舗装																																							
開通予定時期																						8カ月	2カ月			6カ月																																	

任意交渉による解決

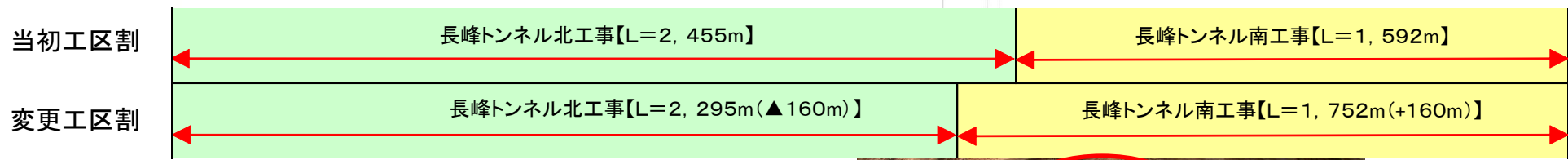
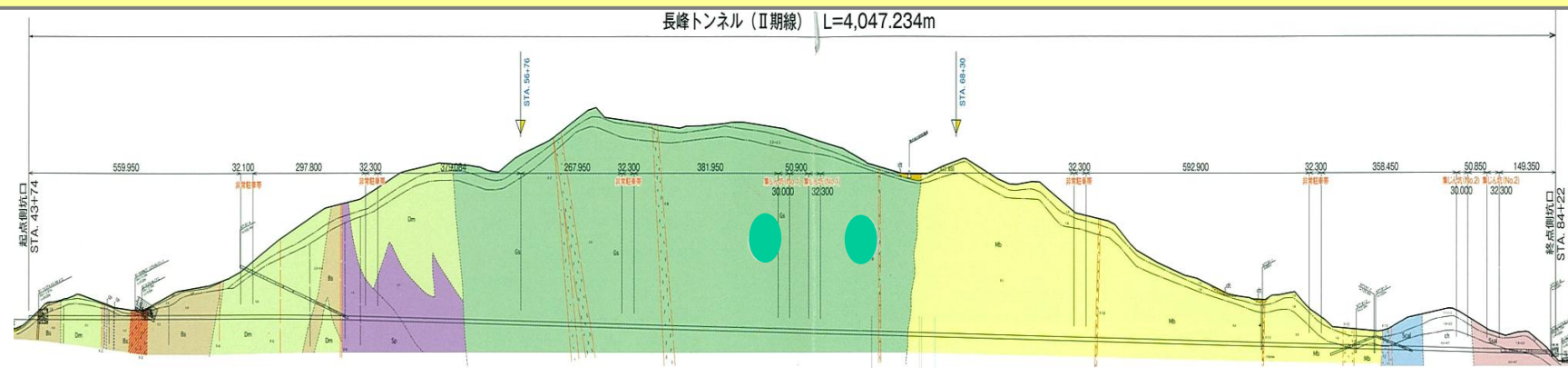
【用地】

- ・当該箇所は果樹の移植補償が難航していたが、任意取得を目指して、交渉を継続
- ・H19.4月の収用手続き開始後も交渉を続け(5回)、補償内容を粘り強く説明した結果、H20.2月に任意により用地を取得

②-1 長峰トンネルにおける工程短縮

【長峰トンネル工事】

- ・長峰トンネル北工事は、地質が悪く補助工法の対策工範囲が増加した事によりトンネル工事工程が遅延
- ・比較的地質状況が良かった長峰トンネル南工事の施工区間を延長し、トンネルの全体工程の遅延を回避



土砂化した箇所からの崩落



天端部からの剥落約3m³程度発生

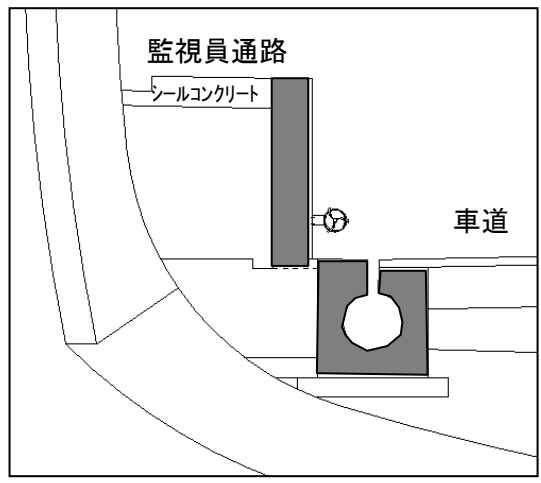
②-2長峰トンネルにおける工程短縮

【舗装工事・施設工事】

- ①円形水路及び監視員通路側壁を現場打ちコンクリート施工から監視員通路の側壁と水路を一体化したプレキャスト製品に変更し工期を**約3カ月短縮**
- ②舗装工事の施工パーティー数の増(4パーティー⇒5パーティー)、施設工事との綿密な工程調整により**約3カ月短縮**

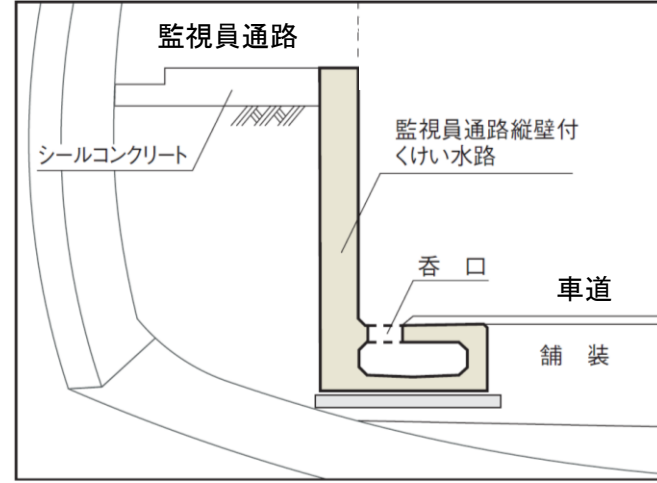
円形水路・監視員通路断面図

現場打ちコンクリート施工時の断面図



円形水路を施工後、監視員通路の側壁を施工

プレキャスト製品使用時の断面図

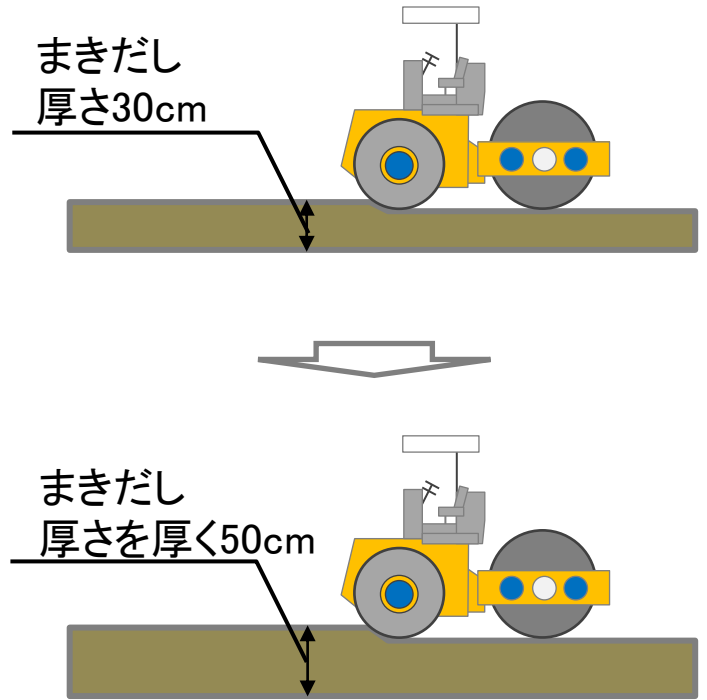
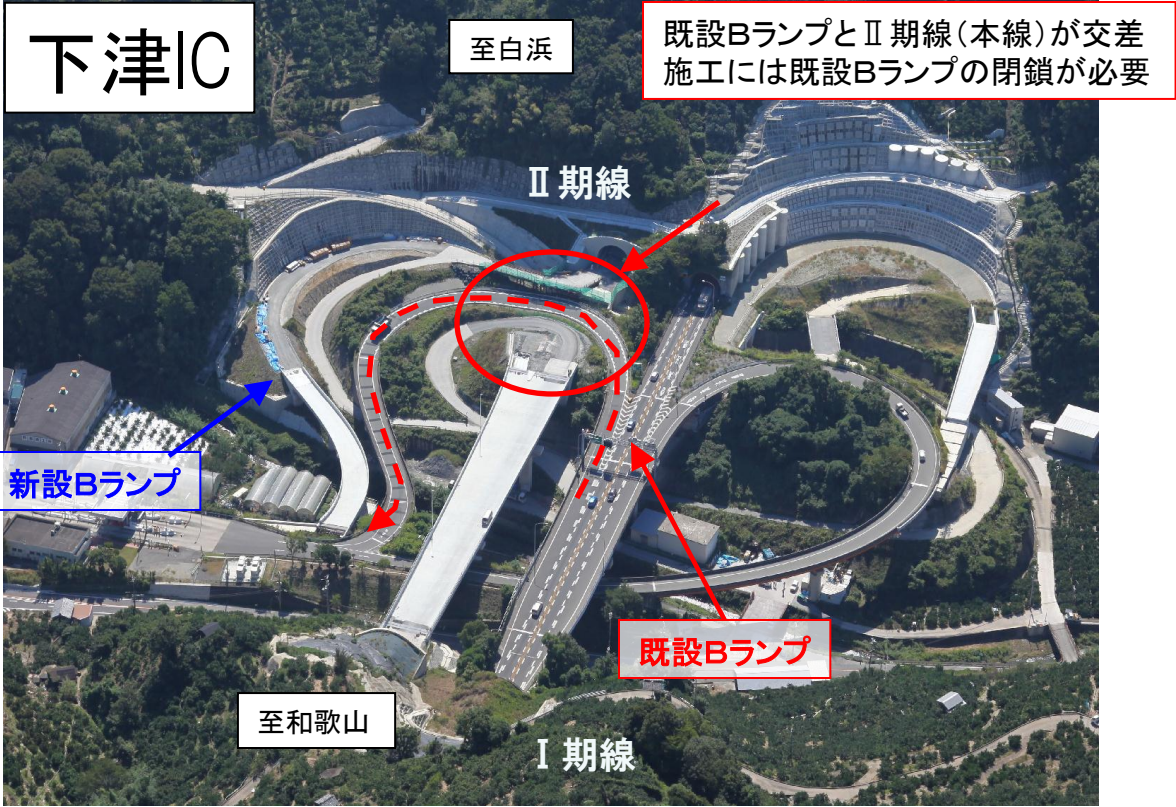


水路及び監視員通路側壁が一体化したプレキャスト製品で施工し、施工期間を短縮

施工状況



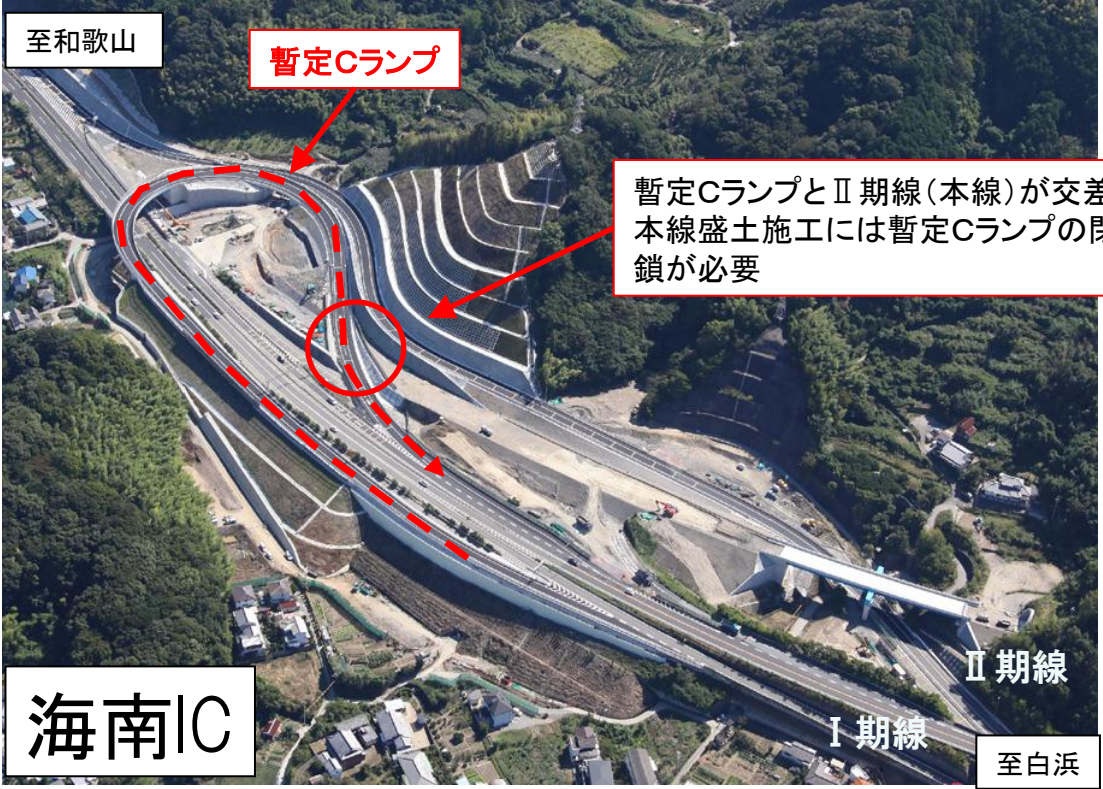
③-1ランプ盛土施工方法の工夫による短縮【下津IC】



- ◇盛土施工の工夫によるランプ閉鎖期間の短縮
- ・盛土材を土砂から鉄鋼スラグに変更し、まきだし厚さを厚くすることで施工能力を向上
 - ・昼夜連続施工の実施
 - ・閉鎖期間を35日⇒30日に短縮した。

5日間の短縮

③-2ランプ盛土施工方法の工夫による短縮【海南IC】



- ◇盛土施工の工夫によるランプ閉鎖期間の短縮
- ・盛土材を土砂から鉄鋼スラグに変更し、まきだし厚さを厚くすることで施工能力を向上
 - ・昼夜連続施工の実施
 - ・閉鎖期間を31日⇒21日に短縮した。

10日間の短縮

収用予定だった用地を任意交渉で取得し、舗装、施設工事における工程調整、ランプ閉鎖時の施工方法の工夫などにより**供用までの期間を短縮したものである。**

運用指針第2条第1項第3号に該当

海南IC～有田IC間で約20ヶ月の工期短縮による一般管理費、その他費及び金利の縮減



会社の経営努力によるものであると認定

助成金交付における経営努力要件適合性の認定に関する運用指針(抜粋)

第二条 経営努力要件適合性の認定基準

機構は、助成金交付申請をした高速道路会社の主体的かつ積極的な努力による次の各号に掲げる費用の縮減(適正な品質や管理水準を確保したものに限り)について、経営努力要件適合性の認定を行うものとする。

③供用までの期間を短縮したことによる費用の縮減